

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2 単位	学年	1 年	コース
使用教科書	Tutti+ 教育出版			使用副教材等				

目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、芸術文化についての知識と教養を身に付け、生徒一人一人の創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【知識】曲想や音楽の構造、表現上の効果の関わりについて理解している。 【技能】曲にふさわしい発声、発音、身体の使い方、演奏の技能などを身に付け、歌唱・器楽・創作・で表している。	音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら考えるとき、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴き、自己のイメージをもつてどのように表現するかについて思いや意図をもっている。	音楽活動を楽しみながら主体的・協力的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	・筆記テスト(学年末) ・実技テスト(器楽・創作・歌唱)	・実技テスト(器楽・創作・歌唱) ・授業ワークシート	・授業ワークシート ・グループワーク ・授業態度

担当者からのメッセージ	「音楽 I」では、中学校音楽科の学習を踏まえ、歌唱・器楽・創作・鑑賞の分野を学習していきます。日頃から親しんでいるJ-POPから様々な年代や国の音楽を幅広く学習し、音楽文化の理解を深めます。生涯にわたって音楽を愛好していくとする心情を育成していきましょう。
-------------	--

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1	4 5 6 7	A.表現 ①歌唱 「校歌」、「優しいあの子」、日本歌曲など ③創作 音のスケッチ① B.鑑賞 オークストラの魅力を探ろう 「ボレロ」 吹奏楽の魅力味わおう 「青い水平線」	【知識・技能】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。曲にふさわしい発声、発音、体の使い方を身に付け歌唱で表現できている。 【思考・判断・表現】音色、旋律、強弱、構成、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって表現すること、聴くことができている。 【主体的に学習に取り組む態度】音楽の構造や表現上の効果との関わりについて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作、歌唱、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	9 10 11 12	A.表現 ①歌唱 イタリア語orドイツ語に挑戦より 「Caro mio ben」「野ばら」 合唱曲 ②器楽 ギターアンサンブル ③創作 音のスケッチ④ B.鑑賞 西洋音楽の源流を耳でたどろう 交響曲の魅力を探求しよう 「ベートーヴェン第九」	【知識・技能】曲想と音楽の構造や歌詞・イタリア語orドイツ語の特性との関わりについて理解している。曲種に応じた発声、発音、体の使い方を身に付け歌唱で表現でき、演奏する技能を身に付け器楽で表現できている。 【思考・判断・表現】音色、旋律、強弱、構成、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって表現すること、聴くことができている。 【主体的に学習に取り組む態度】音楽の構造や表現上の効果との関わりについて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作、歌唱、器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
3	1 2 3	A.表現 ①歌唱 合唱曲 物語と音楽との関わりに注目しよう ②器楽 和楽器 ③創作 コンサートを開こう(音 I のまとめ) B.鑑賞 古の音楽に思いをはせよう「雅楽」 「能」など 世界の様々な音楽の魅力	【知識・技能】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。曲にふさわしい発声、発音、体の使い方を身に付け歌唱で表現できている。 【思考・判断・表現】音色、旋律、強弱、構成、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって表現すること、聴くことができている。 【主体的に学習に取り組む態度】音楽の構造や表現上の効果との関わりについて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作、歌唱、器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。